

1 自己評価

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100083		
法人名	ひかりの里 有限会社		
事業所名	グループホーム ひかりの里(1階ユニット藤・2階ユニット桃)		
所在地	岡山県岡山市南区中畦187-8		
自己評価作成日	令和3年10月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3390100083-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひかりの里は、岡山市南区郊外に立地し、田園の中、四季を感じられる自然にも恵まれています。なかとう整形外科をバックに、デイサービス、有料老人ホームと併設し、全て渡り廊下で繋がっているため、他の部署との交流もあり、何より医療との連携にて早急な対応が図れ、ご家族からも信頼され、利用者様にも安心して過ごして頂いています。利用者様が住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中、その人らしく暮らして頂けるようにコロナ禍ではありますが、地域の方々、ご家族とのつながりを大切に一人一人にしっかり寄り添いホーム内で出来ることを最大限に工夫して、季節行事、イベント、レクリエーション、アクティビティ等を行い、毎日元気で明るく楽しく過ごして頂けるよう、ひかりの里の理念でもあります『誠実・希望・愛・笑顔』をモットーに日々頑張っているグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームひかりの里が南区中畦に、介護と医療と地域の融合を目指して平成18年5月に開設されたという話は聞いていたが、思いがけず平成19年の春には訪問させて頂いたのです。外部評価としての仕事と同時に、各種施設・設備を見せてもらったり説明してもらった。その時特に残った印象に残った話し合いが、やはり「介護・医療と地域の融合を今後大切にしていこう」だったのです。当時から十数年も経た「ひかりの里」は、利用者や地域の住民がこの地域で安心して暮らし、今日出会ったグループホームの皆さんの笑顔や、両ユニットの明るさ・楽しさ・安心感が伝わってきた。ホーム開設から十数年の努力の賜物によって今日の「ひかりの里」が築き上げられたと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) コロナ禍自粛	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) コロナ禍自粛	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) コロナ禍自粛	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に触れる場所に事業所の理念を掲示し、日々のケアの中で意識をもって、サービスの提供に努め取り組み実践している。 又オリエンテーションにおいて説明とアンケートの実施。カンファレンス等にての話し合い実践に努めている。	ホーム開設以来地元住民や地域の関係者とのつながりを大切にしながら、同時に、「利用者一人ひとりが自分らしく、住み慣れたこの地で安心・安全・自由な日々をサポートしていこうとする理念を継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している コロナ禍自粛	興除神社へ初詣・春秋の祭りの参拝や、小学校の運動会・発表会の見学、農協のフェスティバルなどに参加している。事業所として地域の方々、多種多様の方、定期的なギター演奏や日本舞踊のボランティアとの交流も大切にしている。小学生・中学生の慰問、来訪による交流も定着してきているがコロナ禍で自粛をしている。	他のホームも同じ様にコロナ禍による配慮の為、現在は地域の方々やご家族との交流も自粛せざるを得ない状況と思われるが、それまでの各種記録を読み返してみれば、理念に掲げられている通り、地域との融合・交流をととても重視している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている コロナ禍自粛	運営推進会議において『認知症ケア』の実例をもとに認知症の勉強をさせて頂いて、地域の人々と共に認知症の理解を深める機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている コロナ禍自粛	運営推進会議に地域の方、民生員、行政担当者多種多様な方他GH管理者、他部署管理者、利用者様家族の参加をして頂き、活発な意見、要望等意見交換の場となっている。議事録を玄関に置き、いつでも、だれでも閲覧できるように開示しているが、運営推進会議もコロナ禍にあって、3密を避け電話での意見を聞く会議は6回中2回となった。	地域との付き合いの項目と同様に、運営推進会議についても同じ様にコロナ禍の為による変更は止むを得ない。但し、可能な方法で、出来る事を工夫したり変更する等、取り組んでいる。	コロナ禍で自粛せざるを得ない現在は別として、以前運営推進会議に実施していた他のホームに見られない工夫や効果的な取り組み等、このホーム特有のアイデアや外部の方々の意見が目について心に残っているので、忘れないように保存しておいて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、行政担当者の参加あり。事業所の状況を報告し理解把握して頂き、意見やアドバイスを頂きながら、サービスの質の向上につながるように、常に連絡を取り施設運営に努めている。	非日常的な状況の中で初めの頃は大変だった事もあったとの事だが、市町村との情報交換や連携も良く取れるようになり、例えばワクチンに関する情報等、種々のつながりが病院との関わりにも功を奏していると聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや運営推進会議等にて、マニュアル作成ファイルを解読し勉強会を行い、意識の共有を図り「身体拘束0」の維持継続に努めたい。施錠については危険性も高いことから、ご家族への説明を行い理解を頂いている。	スピーチロックの振り返りを始めとして、「ちょっと待って！」等、言葉ひとつにしても、声のトーンや笑顔やものの言い方にも工夫し合う事で個々の尊厳を大切にしよう努力している。利用者一人ひとりの尊重とプライバシー確保の支援によくつながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等でマニュアル作成ファイルを解読し、勉強会を行い周知徹底と職員の理解、認識を深めている。日頃より具体的に事例を上げ声掛けや言葉づかいについても意識改革に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で資料を基に勉強会の機会を持ち、知識・認識が深められるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のご家族の見学はコロナ禍でできないが、事前に詳しいホームの説明をさせて頂き、疑問や不安な点をお聞きしている。重要事項説明書の丁寧な説明も合わせてさせて頂いている。お互い納得した上で、サービス提供の開始ができるように努めている。その都度、問題点が生じた場合には納得して頂けるまでの説明に努め同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱はあるが活用できていない。契約書には内外部への相談窓口を記載し、年に一回は必ず入居者・家族アンケートを実施し集計結果を玄関に置いて開示している。運営推進会議、面会時等に、意見が頂ける環境に心がけている。日常的に話しやすい雰囲気づくりに努めている。面会時にはしっかりとコミュニケーションを図り日々ふれあいの中で思いをくみ取るように努めている。	コロナ禍の状況になっても可能な限り、利用者本人や家族の意見や要望を受け入れ、納得が出来るように話し合ったり、職員が色々な工夫や申し送り等で相談する等、良い対応がみられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、カンファレンス、連絡ノートの活用により、日々の中で意見や提案がいつでも言える柔軟な体制や関係が図れる環境に努めている。内容によっては全体会議で検討し、対応している。	全体会議やカンファレンス等の時だけでなく、日常的に話し合える体制が出来ているので、職員間の意思疎通は十分図れる。従って申し送りの時等も能率良く進んでいる。職員間で情報交換し合う「申し送りノート」も、お互いに分かり易く効率的に伝えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は常に報告連絡相談は密に図っている。管理者は職員の個々の意見や提案を聞き、職場環境の把握に努めている。職員は、利用者担当を決め責任感ややりがいを持つような工夫に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修のお知らせを掲示し、一人でも多くの職員が参加できるよう取り組んでいる。カンファレンス時、年間計画に応じて資料をもとに勉強会と介護技術取得を図るため施設内研修の強化に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている コロナ禍自粛	出来るだけ研修に参加することで同業者との情報収集に努め、情報交換、意見交換ができるように努めている。仕事に対する高いモチベーションを持ち業務に対する達成感や、その時知り得た情報は、現場に反映しサービスの質の向上に繋がるよう努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前ご本人様ご家族様との対話の時間もコロナ禍で限られているが、できる限り若い時から現在に至るまでの情報提供を頂き、ご本人をより詳しく理解するように努めている。又入所前に訪問面談調査を行い情報収集に努めアセスメントを行っている。本人の状態 意向等を伺い、不安や困っていることがあれば丁寧に説明をして、安心感の構築に努めている。事前の情報収集を元にカンファレンス、申し送り等で話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族の困っている事、思い、要望を伺い信頼関係の構築に努めている。どんな小さなことでも相談、助言ができる雰囲気にも努めている。本人が安心して暮らせるような信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様ご家族の意向をしっかりと把握し、サービスの提供段階で、安心してサービスを受けられるように努めている。要望を反映できるよう、ゆっくりお話を聞きながら、ご本人、家族を支援していく体制づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす意識を持ち、ゆっくり本人の能力に応じて一緒にお手伝いして頂いている。日常生活の中で、教えあったり励ましあい助け合いができる、家庭的な雰囲気を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に行事、運営推進会議等にできるだけ電話等で参加していただけるよう声掛けに努めている。面会時や毎月のお便りで本人様の様子を伝えながら、ご家族の意向もわかっている。家族との繋がりを大切にする中で協力を得ながら、ご本人様と一緒に支えていける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている コロナ禍自粛	地域の方やボランティアの方等、また他の部署での3密を避けたイベント行事への参加を通して、顔見知りの方とふれあう機会を作り、交流に努めている。 コロナ禍で直接会えない為、窓越し、ベランダ越しに会って頂き、関係が継続されるよう支援している。	コロナ禍の状況が続き、家族の面会もまだまだ制限を設けざるを得ないが、テレビ画面等でのリモート面会ではなく、直接顔が見える状態で、窓越しやベランダ越しでの面会をしてもらっている。また、リビングの戸を開けた状態にして家族に利用者の様子を見てもらう等の工夫をして、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座る位置も大体決まってはいるが、職員は個々に自由に過ごせるような環境を作ったり、また入居者同士の間人間関係を把握して利用者同士の会話が出来るなど、居心地よく落ち着いて過ごせるよう配慮している。又職員はイベントや行事を通し利用者同士が良好な関係が保てるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている コロナ禍自粛	退所時、他施設への紹介や移動時には情報提供と説明に努めている。退所後においても相談があれば、その都度アドバイス、助言等もさせて頂いている。転所先への見舞い、面会等についてもご家族様が来て下さったり、連絡を取ったりしている。又ご家族様の中にはボランティアで定期的に訪問して下さっている方もおられるが、コロナ禍の為、一時中止とさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドを踏まえ、普段の会話の中から思いやご本人の言葉を大切に、又つづやき・表情・仕草等でも感じ取り職員間で共有しその人らしいケアに繋げている。それでも困難な場合にはご家族の協力を頂いている。	家族に近況報告の手紙を書く為にも、日頃からそれぞれの利用者の発した言葉をしっかり聞き取りメモをするようにしており、介護記録にも思いや願い、職員との会話等が詳細に記述されている。そしてその思いや意向をケアプランにもつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴・既往歴・環境等などの情報収集に努めている。又これまでサービスを使われていた場合、ケアマネ、相談員からの情報も得て、今まで生活していたことがホームでも継続し安心して過ごして頂けるような支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、心身の状態の把握と観察を記録に残し、情報の共有に努めている。日々の生活の中から本人の思いに寄り添い共感し、ゆっくり、のんびり過ごして頂けるような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等でケアマネを中心に利用者担当が、ご本人・ご家族の意向確認の上、ニーズの把握に努めながらケアプランを作成している。必要に応じて定期的評価、見直しをしている。また関係者にも連絡、相談をして実践に反映できるように努めている。	カンファレンス記録やケアプランからも確認出来るが、一人ひとりのニーズ(課題)を掘り起こし、職員間で話し合って、本人・家族の意向を踏まえつつ現状に即したケアプランを作成している。リハビリにも力を入れているが、心のケアに重点を置いたプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの内容、状態変化などを記録。定期的に評価を行っている。細かな気づきや状態変化も職員間での共有を図り、必要に応じてカンファレンス、申し送り・・・等にて検討、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いや意向に添った援助ができるよう、ご家族への報告連絡で理解と協力が得られるよう努めている。また医療機関や専門職他の部署のアドバイスも受けながら連携を図りその時のニーズに合わせた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している コロナ禍自粛	地域行事やイベントへの参加。小中学生の受け入れての交流に努めている。また学生やボランティアによる太鼓・歌・踊りを一緒にすることで楽しみとしているが、コロナ禍で一時中止となっている。利用者作品、写真掲示にてお互いに楽しめる環境に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時ご家族の要望の確認をしている。病院と併設していることで、利用者、ご家族様と信頼関係が築け安心して頂いている。専門診療が必要な時は専門医への紹介と情報提供に努め、スムーズな診療体制が取れている。	利用者全員が母体である医療機関を主治医としている。365日24時間いつでも連絡が取れる体制が整っているので緊急時でも安心であり、また、職員に看護師もいるので、医療と介護の連携がしっかり出来ていて心強い。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で状態の変化に気づき、看護師に随時報告、助言を受け適切な医療や看護が受けられるように支援している。看護師とは昼夜問わず連絡が取れる体制となっている為、何かあれば早急な対応が出来ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療と介護の情報提供書の作成をし提示を行っている。医療関係者と情報交換を行う中で連携を密に行い、早期退院となるように努めている。他施設への転院の場合もソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応の指針を説明し理解して頂いている。常に状態の報告に努め、更に重度化した場合、主治医と連携を図りながらご家族様、職員全員でその都度に応じて話し合いを重ね方針を決めている。	現在高齢等により終末期ケアの人は二人いるが、この数年は看取りのケースはない。看取りサービス計画書の作成や、看取り介助についての勉強会をして、日頃から職員間で出来る限りの支援をしていこうと話合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症や緊急時のマニュアルを作成し、施設内研修で事故対応(気道確保、体位等)に関する事は必ず指導をしている。急変や事故発生時に対応できる体制はある。定期的な応急手当の訓練は行っているが消防署のリモートでの講習会や勉強会を行い、特に感染症には力を入れ定期的実践している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている コロナ禍自粛	火災や地震、水害等のマニュアルは備えている。定期的に災害時(夜間想定)の訓練も行い、避難経路や自動通報装置の使い方などの確認を行なっている。運営推進会議などで地域の方、ご家族の方の電話での参加を呼びかけ、協力もお願いしている。	消防署の立ち会いの下、避難訓練を実施し、避難後各ドアに確認の印として付箋を貼っていたのは良い方法との評価や助言をもらった。水害時の災害訓練では階段やエレベーターで2階に移動したり、渡り廊下を通して隣接する有料老人ホームへ避難する等利用者も参加して行った。また、今年度は水害マニュアルの見直しをした。	火災、水害、地震等の災害訓練は毎年行っているが、干拓地というこの地域性から液状化の方が心配との声を職員から聞いたので、今後は様々な事態を想定した対応・対策を職員間で検討して欲しい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように、プライバシーに配慮した援助に努めている。その人その人に応じた関わり方や言葉づかい、態度に留意しながら対応している。個人情報の管理は慎重に行うよう職員の周知徹底に努めている。	倫理・法令遵守・人権擁護・プライバシー保護・接遇等の勉強会をして職員間で共通の認識を図りながら日々のケアにも活かしており、スピーチロックを始め、言葉遣いや接し方に十分に配慮し、一人ひとりの尊厳を大切にするように務めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて『本人はどうしたいのか』本人主体となるように、職員が自然体で接する事で、会話の中から引き出せるように心がけている。また自己決定ができるように働きかけたり、言いやすい環境や関係づくりにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活すべての場面において、ご本人の思いを尊重し自分らしく生活できるように工夫した声掛け、援助に努めている。一日の日課はあるが、他の問題によって時間配分ができず、介護者側の都合になってしまう事もあるが、可能な限り利用者の思いに添えるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向確認をしながら好きな服、着たい服と一緒に選んだり、訪問理美容はコロナ禍で中止となっているがスタッフにより好みの髪型にカットしたり、アドバイスをしながら行っている。ご家族の協力も得ながら季節に合わせた服装ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設管理栄養士の元での食事提供ではあるが、季節行事・イベントの時は特別メニューで楽しみのある食事となっている。食べた後の片づけ等は一緒に行ってもらえるよう努めている。おやつ作りは、月1~2回利用者と一緒に作り、食べて楽しんで頂いている。栄養士が利用者の意見を聞いたり、利用者の現状を見る中で更に楽しめるよう工夫している。	隣接する厨房から毎食運ばれてくる食事は、利用者個々の嗜好も最大限に活かされたメニューになっている。味覚の秋になり最近では栗ご飯がとても美味しかったと聞いた。普通食・刻み・一口大・ミキサー食等その人の食事形態に合わせて提供し、毎月のおやつ作りもある等、食事は楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表への記入で把握に努めている。管理栄養士にて栄養ケアに係る技術的助言及び指導を受け食事形態の工夫、おいしい飲み物等、必要に応じて代替えでの対応にも努めている。個々の嗜好、制限もあるが健康管理の範囲内であれば、本人の意向を尊重した援助に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアを行い、様子を見ながら出来ていない部分のみ援助し清潔保持に努めている。口腔内のトラブルがある時は、ご家族に報告連絡相談の上、随時改善できるよう支援に努めている。定期的に義歯洗浄消毒を行っている。月に一度、訪問歯科からの口腔ケアについて指導を受けている。「口腔衛生管理体制」にて助言や指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを知り、その人その人に合った援助に努めている。何気ない行動や仕草等に気を付け、トイレでの排泄に向けて援助の工夫に取り組んでいる。	自立、見守り、トイレ誘導、パット交換等、一人ひとりの排泄状況を把握し、自立支援に向けて声かけや介助をしている。100才のAさんは今でもリハビリパンツだけで失禁が全くないとの事。また、日頃の小まめな排泄ケアにより、以前より改善した例もあるようだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操への参加を促し、十分な水分を摂ってもらうよう声掛けに努めている。時として起床時ミルクを飲んでもらい自然排便の促しに努めている。必要に応じて、医師に報告指示を受け、下剤服用で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて毎日でも入れるようにしている。希望されない時には、様子を見ながら又タイミングを図って声掛けをし、援助の工夫に努めている。一般浴が困難になった場合は、3人対応にてシャワー浴が出来るように努めている。	隣接する有料老人ホームで機械浴は出来るが、重度化した人も気持ち良く風呂を楽しんでもらえるように、いろいろ創意工夫をしながら3人態勢で入浴介助している。入浴を好まない人の場合には、上手く入ってもらえた成功例を職員間で共有しながら声かけの方法等を話し合い、次回に活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握して体調や状況に応じて、自由に休息できるように支援しているが、夜の安眠の妨げになるようであれば、様子見ながらリビングで過ごして頂いている。夜間眠れない方は居室で、話を聞いたり、お茶を飲んでもらい、寄り添い安眠できるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指示のもと、報告・連絡・相談を密に取り、個々の把握に努めている。職員は各自薬の副作用や用法、容量をファイルで確認し、理解に努めている。薬の変更や追加があった場合は職員間で共有し、状態の様子観察に努め、医師、看護師へ報告し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を踏まえて、趣味・嗜好・特技等を考慮しながら日常生活場面において、その方の能力に応じて役割を分担して行ってもらっている。又、気分転換となるような作業、レク、リハ等のプログラムの提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している コロナ禍自粛	利用者様の希望に応じて散歩、外気浴、他部署等の3密を避けての交流にて気分転換を行ってもらっている。又ご家族の協力を得ながら、コロナ禍ではあるが感染防止に努め、時に外出等もして頂いている。大がかりな施設行事での参加、地域の方との触れ合い等はコロナ終息での再開としたい。	コロナ禍による自粛の為、以前のように集団での外出支援は難しいが、家族の協力もあり、例えば受診の際の外出時に、家族とドライブや食事を楽しんでいる例もある。日当たりの良いベランダや庭で日光浴や外気浴をしたり、近くを散歩して気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が自己管理ができないため基本的にはホームで管理している。本人希望あれば能力に応じて、ご家族了解のもと、少しのお金は持っている。欲しいものがあるときは立替での対応としている。本人の要求には応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも使用できるようにはしている。ご家族の了解のもと要望者には固定電話のある所まで付き添い、取次援助としている。お手紙、はがき等出したい希望があれば付き添い援助に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングに利用者様が作成した作品(書道・ちぎり絵・写真等)を掲示している。利用者様が快適に過ごせるように、室温管理等の環境整備に努めている。清潔で季節感を感じられるように気を付けている。玄関、リビングに、家庭的な明るい雰囲気づくりに心がけ季節の花も飾っている。不快や混乱を招かないように十分配慮している。	窓際のお気に入りの場所で椅子に座り日向ぼっこをしている人や夫婦仲良くソファでテレビを観ている人達もいて、リビングは開放的でゆったりと落ち着いた環境になっている。リビングの壁に「生活の様子」として写真がいっぱい貼ってあり、様々なアクティビティを楽しんでいる様子がうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中、時には一人でゆっくり過ごせる場所として、和室に、椅子・ソファを置き、利用してもらっている。又リビングの長ソファでは気の合った人同士が、テレビを観たり、ゆっくり談話ができるよう工夫している。個人やグループで過ごす時間も大切にできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の理解と協力を得て、テレビ タンス 机 椅子 愛着服等、馴染みある物を持ち込んで頂き、居心地よく、落ち着き安心して過ごして頂ける環境に配慮している。	白やピンクを基調とした可愛い家具や布団を持ち込み、写真や人形を飾ってある部屋もあれば、創作活動をする机や椅子を置いている部屋もある。自室でテレビを観ている人の部屋からはドアの隙間から音が聞こえてきた。どの部屋も家族の愛情が感じられる居心地の良い生活空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室は目印等にて場所がはっきりわかるように工夫している。リビング周りには、手すりを付け、安全な移動ができるように環境整備に努めている。他の部署に行く際も、屋根付き渡り廊下になっている為、雨の日も安全安心な移動ができています。その人の能力に応じた環境整備を行い、転倒転落防止に配慮している。		

1 自己評価

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100083		
法人名	ひかりの里 株式会社		
事業所名	グループホーム ひかりの里(1階ユニット藤・2階ユニット桃)		
所在地	岡山県岡山市南区中畦187-8		
自己評価作成日	令和3年10月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3390100083-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひかりの里は、岡山市南区郊外に立地し、田園の中、四季を感じられる自然にも恵まれています。なかとう整形外科をバックに、デイサービス、有料老人ホームと併設し、全て渡り廊下で繋がっているため、他の部署との交流もあり、何より医療との連携にて早急な対応が図れ、ご家族からも信頼され、利用者様にも安心して過ごして頂いています。利用者様が住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中、その人らしく暮らして頂けるようにコロナ禍ではありますが、地域の方々、ご家族とのつながりを大切に一人一人にしっかり寄り添いホーム内で出来ることを最大限に工夫して、季節行事、イベント、レクリエーション、アクティビティ等を行い、毎日元気で明るく楽しく過ごして頂けるよう、ひかりの里の理念でもあります『誠実・希望・愛・笑顔』をモットーに日々頑張っているグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) コロナ禍自粛
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) コロナ禍自粛
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) コロナ禍自粛	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に触れる場所に事業所の理念を掲示し、日々のケアの中で意識をもって、サービスの提供に努め取り組み実践している。 又オリエンテーションにおいて説明とアンケートの実施。カンファレンス等にての話し合い実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している コロナ禍自粛	興除神社へ初詣・春秋の祭りの参拝や、小学校の運動会・発表会の見学、農協のフェスティバルなどに参加している。事業所として地域の方々、多種多様の方、定期的なギター演奏や日本舞踊のボランティアとの交流も大切にしている。小学生・中学生の慰問、来訪による交流も定着してきているがコロナ禍で自粛をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている コロナ禍自粛	運営推進会議において『認知症ケア』の実例をもとに認知症の勉強をさせて頂いて、地域の人々と共に認知症の理解を深める機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている コロナ禍自粛	運営推進会議に地域の方、民生員、行政担当者多種多様な方他GH管理者、他部署管理者、利用者様家族の参加をして頂き、活発な意見、要望等意見交換の場となっている。議事録を玄関に置き、いつでも、だれでも閲覧できるように開示しているが、運営推進会議もコロナ禍にあつて、3密を避け電話での意見を聞く会議は6回中2回となった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回、行政担当者の参加あり。事業所の状況を報告し理解把握して頂き、意見やアドバイスを頂きながら、サービスの質の向上につながるよう、常に連絡を取り施設運営に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや運営推進会議等にて、マニュアル作成ファイルを解説し勉強会を行い、意識の共有を図り「身体拘束0」の維持継続に努めたい。施錠については危険性も高いことから、ご家族への説明を行い理解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等でマニュアル作成ファイルを解説し、勉強会を行い周知徹底と職員の理解、認識を深めている。日頃より具体的に事例を上げ声掛けや言葉づかいについても意識改革に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で資料を基に勉強会の機会を持ち、知識・認識が深められるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のご家族の見学はコロナ禍でできないが、事前に詳しいホームの説明をさせて頂き、疑問や不安な点をお聞きしている。重要事項説明書の丁寧な説明も合わせてさせて頂いている。お互い納得した上で、サービス提供の開始ができるように努めている。その都度、問題点が生じた場合には納得して頂けるまでの説明に努め同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱はあるが活用できていない。契約書には内外部への相談窓口を記載し、年に一回は必ず入居者・家族アンケートを実施し集計結果を玄関に置いて開示している。運営推進会議、面会時等に、意見が頂ける環境に心がけている。日常的に話しやすい雰囲気づくりに努めている。面会時にはしっかりとコミュニケーションを図り日々ふれあいの中で思いをくみ取るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、カンファレンス、連絡ノートの活用により、日々の中で意見や提案がいつでも言える柔軟な体制や関係が図れる環境に努めている。内容によっては全体会議で検討し、対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は常に報告連絡相談は密に図っている。管理者は職員の個々の意見や提案を聞き、職場環境の把握に努めている。職員は、利用者担当を決め責任感ややりがいを持つような工夫に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修のお知らせを掲示し、一人でも多くの職員が参加できるよう取り組んでいる。カンファレンス時、年間計画に応じて資料をもとに勉強会と介護技術取得を図るため施設内研修の強化に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている コロナ禍自粛	出来るだけ研修に参加することで同業者との情報収集に努め、情報交換、意見交換ができるように努めている。仕事に対する高いモチベーションを持ち業務に対する達成感や、その時知り得た情報は、現場に反映しサービスの質の向上に繋がるよう努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前ご本人様ご家族様との対話の時間もコロナ禍で限られてはいるが、できる限り若い時から現在に至るまでの情報提供を頂き、ご本人をより詳しく理解するように努めている。又入所前に訪問面談調査を行い情報収集に努めアセスメントを行っている。本人の状態 意向等を伺い、不安や困っていることがあれば丁寧に説明をして、安心感の構築に努めている。事前の情報収集を元にカンファレンス、申し送り等で話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族の困っている事、思い、要望を伺い信頼関係の構築に努めている。どんな小さなことでも相談、助言ができる雰囲気にも努めている。本人が安心して暮らせるような信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様ご家族の意向をしっかりと把握し、サービスの提供段階で、安心してサービスを受けられるように努めている。要望を反映できるよう、ゆっくりお話を聞きながら、ご本人、家族を支援していく体制づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす意識を持ち、ゆっくり本人の能力に応じて一緒にお手伝いして頂いている。日常生活の中で、教えあったり励ましあい助け合いができる、家庭的な雰囲気を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に行事、運営推進会議等にできるだけ電話等で参加していただけるよう声掛けに努めている。面会時や毎月のお便りで本人様の様子を伝えながら、ご家族の意向もうかがっている。家族との繋がりを大切にする中で協力を得ながら、ご本人様と一緒に支えていける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている コロナ禍自粛	地域の方やボランティアの方等、また他の部署での3密を避けたイベント行事への参加を通して、顔見知りの方とふれあう機会を作り、交流に努めている。 コロナ禍で直接会えない為、窓越し、ベランダ越しに会って頂き、関係が継続されるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座る位置も大体決まってはいるが、職員は個々に自由に過ごせるような環境を作ったり、また入居者同士の間人間関係を把握して利用者同士の会話ができるなど、居心地よく落ち着いて過ごせるよう配慮している。又職員はイベントや行事を通し利用者同士が良好な関係が保てるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている コロナ禍自粛	退所時、他施設への紹介や移動時には情報提供と説明に努めている。退所後においても相談があれば、その都度アドバイス、助言等もさせて頂いている。転所先への見舞い、面会等についてもご家族様が来て下さったり、連絡を取ったりしている。又ご家族様の中にはボランティアで定期的に訪問して下さっている方もおられるが、コロナ禍の為、一時中止とさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドを踏まえ、普段の会話の中から思いやご本人の言葉を大切に、又つぶやき・表情・仕草等でも感じ取り職員間で共有しその人らしいケアに繋げている。それでも困難な場合にはご家族の協力を頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴・既往歴・環境などの情報収集に努めている。又これまでサービスを使われていた場合、ケアマネ、相談員からの情報も得て、今まで生活していたことがホームでも継続し安心して過ごして頂けるような支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、心身の状態の把握と観察を記録に残し、情報の共有に努めている。日々の生活の中から本人の思いに寄り添い共感し、ゆっくり、のんびり過ごして頂けるような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等でケアマネを中心に利用者担当が、ご本人・ご家族の意向確認の上、ニーズの把握に努めながらケアプランを作成している。必要に応じて定期的評価、見直しをしている。また関係者にも連絡、相談をして実践に反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの内容、状態変化などを記録。定期的に評価を行っている。細かな気づきや状態変化も職員間での共有を図り、必要に応じてカンファレンス、申し送り…等にて検討、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いや意向に添った援助ができるよう、ご家族への報告連絡で理解と協力が得られるよう努めている。また医療機関や専門職他の部署のアドバイスも受けながら連携を図りその時のニーズに合わせた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している コロナ禍自粛	地域行事やイベントへの参加。小中学生の受け入れての交流に努めている。また学生やボランティアによる太鼓・歌・踊りを一緒にすることで楽しみとしているが、コロナ禍で一時中止となっている。利用者作品、写真掲示にてお互いに楽しめる環境に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時ご家族の要望の確認をしている。病院と併設していることで、利用者、ご家族様と信頼関係が築け安心して頂いている。専門診療が必要な時は専門医への紹介と情報提供に努め、スムーズな診療体制が取れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で状態の変化に気づき、看護師に随時報告、助言を受け適切な医療や看護が受けられるように支援している。看護師とは昼夜問わず連絡が取れる体制となっている為、何かあれば早急な対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療と介護の情報提供書の作成をし提示を行っている。医療関係者と情報交換を行う中で連携を密に行い、早期退院となるように努めている。他施設への転院の場合もソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応の指針を説明し理解して頂いている。常に状態の報告に努め、更に重度化した場合、主治医と連携を図りながらご家族様、職員全員でその都度に応じて話し合いを重ね方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症や緊急時のマニュアルを作成し、施設内研修で事故対応(気道確保、体位等)に関する事は必ず指導をしている。急変や事故発生時に対応できる体制はある。定期的な応急手当の訓練は行っているが消防署のリモートでの講習会や勉強会を行い、特に感染症には力を入れ定期的実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている コロナ禍自粛	火災や地震、水害等のマニュアルは備えている。定期的に災害時(夜間想定)の訓練も行い、避難経路や自動通報装置の使い方などの確認を行なっている。運営推進会議などで地域の方、ご家族の方の電話での参加を呼びかけ、協力もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように、プライバシーに配慮した援助に努めている。その人その人に応じた関わり方や言葉づかい、態度に留意しながら対応している。個人情報の管理は慎重に行うよう職員の周知徹底に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて『本人はどうしたいのか』本人主体となるように、職員が自然体で接する事で、会話の中から引き出せるように心がけている。また自己決定ができるように働きかけたり、言いやすい環境や関係づくりにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活すべての場面において、ご本人の思いを尊重し自分らしく生活できるように工夫した声掛け、援助に努めている。一日の日課はあるが、他の問題によって時間配分ができず、介護者側の都合になってしまう事もあるが、可能な限り利用者の思いに添えるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向確認をしながら好きな服、着たい服と一緒に選んだり、訪問理美容はコロナ禍で中止となっているがスタッフにより好みの髪型にカットしたり、アドバイスをしながら行っている。ご家族の協力も得ながら季節に合わせた服装ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設管理栄養士の元での食事提供ではあるが、季節行事・イベントの時は特別メニューで楽しみのある食事となっている。食べた後の片づけ等は一緒に行ってもらえるよう努めている。おやつ作りは、月1~2回利用者と一緒に作り、食べて楽しんで頂いてる。栄養士が利用者の意見を聞いたり、利用者の現状を見ながら更に楽しめるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表への記入で把握に努めている。管理栄養士にて栄養ケアに係る技術的助言及び指導を受け食事形態の工夫、おいしい飲み物等、必要に応じて代替えでの対応にも努めている。個々の嗜好、制限もあるが健康管理の範囲内であれば、本人の意向を尊重した援助に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアを行い、様子を見ながら出来ていない部分のみ援助し清潔保持に努めている。口腔内のトラブルがある時は、ご家族に報告連絡相談の上、随時改善できるよう支援に努めている。定期的に義歯洗浄消毒を行っている。月に一度、訪問歯科からの口腔ケアについて指導を受けている。「口腔衛生管理体制」にて助言や指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを知り、その人その人に合った援助に努めている。何気ない行動や仕草等に気を付け、トイレでの排泄に向けて援助の工夫に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操への参加を促し、十分な水分を摂ってもらうよう声掛けに努めている。時として起床時ミルクを飲んでもらい自然排便の促しに努めている。必要に応じて、医師に報告指示を受け、下剤服用で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて毎日でも入れるようにしている。希望されない時には、様子を見ながら又タイミングを図って声掛けをし、援助の工夫に努めている。一般浴が困難になった場合は、3人対応にてシャワー浴が出来るように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握して体調や状況に応じて、自由に休息できるように支援しているが、夜の安眠の妨げになるようであれば、様子見ながらリビングで過ごして頂いている。夜間眠れない方は居室で、話を聞いたり、お茶を飲んでもらい、寄り添い安眠できるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指示のもと、報告・連絡・相談を密に取り、個々の把握に努めている。職員は各自薬の副作用や用法、容量をファイルで確認し、理解に努めている。薬の変更や追加があった場合は職員間で共有し、状態の様子観察に努め、医師、看護師へ報告し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を踏まえて、趣味・嗜好・特技等を考慮しながら日常生活場面において、その方の能力に応じて役割を分担して行ってもらっている。又、気分転換となるような作業、レク、リハ・・・等のプログラムの提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している コロナ禍自粛	利用者様の希望に応じて散歩、外気浴、他部署等の3密を避けての交流にて気分転換を行ってもらっている。又ご家族の協力を得ながら、コロナ禍ではあるが感染防止に努め、時に外出等もして頂いている。大がかりな施設行事での参加、地域の方との触れ合い等はコロナ終息での再開としたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が自己管理ができないため基本的にはホームで管理している。本人希望あれば能力に応じて、ご家族了解のもと、少しのお金は持っている。欲しいものがあるときは立替での対応としている。本人の要求には応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも使用できるようにはしている。ご家族の了解のもと要望者には固定電話のある所まで付き添い、取次援助としている。お手紙、はがき等出したい希望があれば付き添い援助に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングに利用者様が作成した作品(書道・ちぎり絵・写真等)を掲示している。利用者様が快適に過ごせるように、室温管理等の環境整備に努めている。清潔で季節感を感じられるように気を付けている。玄関、リビングに、家庭的な明るい雰囲気づくりに心がけ季節の花も飾っている。不快や混乱を招かないように十分配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中、時には一人でゆっくり過ごせる場所として、和室に、椅子・ソファを置き、利用してもらっている。又リビングの長ソファでは気の合った人同士が、テレビを観たり、ゆっくり談話ができるよう工夫している。個人やグループで過ごす時間も大切にできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の理解と協力を得て、テレビ タンス 机 椅子 愛着服等、馴染みある物を持ち込んで頂き、居心地よく、落ち着き安心して過ごして頂ける環境に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室は目印等にて場所がはっきりわかるように工夫している。リビング周りには、手すりを付け、安全な移動ができるように環境整備に努めている。他の部署に行く際も、屋根付き渡り廊下になっている為、雨の日も安全安心な移動ができています。その人の能力に応じた環境整備を行い、転倒転落防止に配慮している。		